

出穂は平年よりも3～5日早まる見込み！！
出穂後の水管理と適期防除で高品質米をめざそう

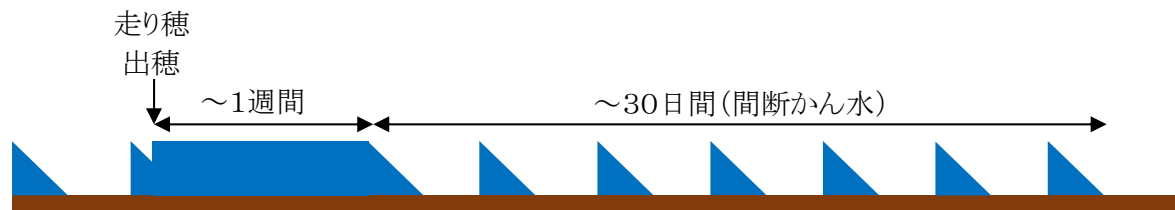
●出穂予測

- 出穂期は平年より3～5日早まる予想です（表1）。
「はえぬき」でも走り穂が出始めている圃場があります。

表1 幼穂による出穂期予想(水田農業研究所(藤島)、出穂期予想、7月19日現在)

品種名	熟期	平年出穂期	予想出穂期	平年差
あきたこまち	早生晩	7月26日	7月23日	-3日
ひとめぼれ	中生晩	8月1日	7月28日	-4日
はえぬき	中生晩	8月1日	7月28日	-4日
雪若丸	中生晩	8月2日	7月28日	-5日
つや姫	晩生	8月9日	8月6日	-3日

●出穂期以降の水管理



- 出穂～出穂後1週間程度 湛水管理（水深3～5cm）
出穂期前後は稲が最も水を必要とする時期です。
走り穂が見えたら湛水状態を保ちましょう。
- 出穂後1週間程度～出穂後30日 間断かん水（2日湛水＋2～3日落水）
根の活力を維持し、しっかりと最後まで登熟させましょう。
間断かん水を基本とし、出穂後30日間は完全落水を行いません。
- 高温となる場合 水交換や飽水管理
出穂後6～10日の高温は、胴割れ粒発生のリスクを高めます。
水管理による冷たい水の供給や、飽水管理で圃場内の地温・気温を低下させます。
- 強風が予想される場合 湛水して稲体を保護！
台風やフェーン現象等の強風は、白穂の発生や登熟不良の原因となります。
天気予報や台風情報をチェックし、事前に湛水しましょう。

●適切な病害虫の防除を！

● 斑点米カメムシ類

県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の注意報が発表されています！
次の項目に留意してしっかりと防除を行いましょう。

□ 除草により、斑点米カメムシ類の密度を減らす

休耕田等の雑草が繁茂している場所では、耕うんによる除草も効果的です。

また刈取った草はその場に放置せず、搬出しましょう。

次のような場所では、特に斑点米カメムシ類の発生が多いので重点的に除草しましょう。

- ・イネ科雑草（スズメノテッポウ・メヒシバ等）が出穂している畦畔や農道
- ・イヌホタルイやノビエ類が多い水田

□ 草刈り休止期間の徹底

禁止期間中の除草は斑点米カメムシ類を水田に追い込み、斑点米の発生を助長します。

地域で草刈り休止期間が設定されている場合には、期間内に草刈りを終了しましょう。

個人防除を行う場合でも、地域で一斉に防除を行うことが、地域全体の斑点米カメムシ類密度を下げることに繋がります。

□ 適期薬剤防除の徹底

「穂揃期」「穂揃期の7～10日後」の2回防除を行います。

● その他病害虫

昨年は、いもち病やコブノメイガの発生が多い圃場が見られました。

今年も葉いもちが県内で広く確認されており、いもち病の発生速報が発表されています。
圃場をよく見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。



写真1 葉いもち病斑(やまがたアグリネットより)



写真2 コブノメイガによる葉巻(左)と幼虫(右)
(やまがたアグリネットより)

☀ 熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取りましょう



- 作業は涼しい時間帯に
- 定期的に休憩を

- 塩分と水分をこまめに補給
- 作業は涼しい服装で